

# SDGs未来都市等進捗評価シート

2020年度選定

静岡県掛川市

2021年9月

**SDGs未来都市計画名**

自治体SDGsモデル事業  
又は特に注力する先導的取組

掛川市SDGs未来都市計画 ～市民協働によるサステナブルなまちづくり～

—

## 1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

## (1) 計画タイトル

掛川市SDGs未来都市計画 ～市民協働によるサステナブルなまちづくり～

## (2) 2030年のあるべき姿

令和の時代になり、人生100年時代やSociety5.0の到来、SDGsの推進等、大きな変革が起きつつある。また、少子高齢化、外国人の流入増加が進む中、すべての人に優しくサステナブルなまちであり続けるために、国籍、性別、年齢、生き方、暮らし方の多様性を認め合い、広域連携、官民連携等の様々な連携により、課題解決を図っていく必要があり、各分野における取組を推進することによって実現を目指す。

## (3) 2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール



## (4) 2030年のあるべき姿の実現に向けた取組の達成状況

No	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値	2020年（現状値）	2030年（目標値）	達成度（%）
1	観光交流客数 【8.9, 10.2, 12.b】	2018年 3,750 千人	2020年 2,756 千人	2025年 4,000 千人	-398%
2	創業支援事業計画支援実績 【8.3,9.b】	2019年 延べ56 件	2020年 延べ64 件	2025年 延べ650 件	1%
3	有機栽培茶園の面積 【2.4,8.2,9.b】	2019年 5 ha	2020年 22 ha	2025年 140 ha	13%
4	子どもが健全に成長していると思う市民の割合 【4.1,4.2,4.3,4.4,4.7,10.2.17.17】	2019年 69.4 %	2020年 67.1 %	2025年 80 %	-22%
5	65歳以上で要介護1以下のお達者市民の割合 【3.4,3.8,17.17】	2018年 90.5 %	2020年 90.2 %	2025年 94 %	-9%
6	掛川は住みやすいところだと思う市民の割合 【9.1,9.b,11.1,11.4,11.6,11.b,13.1,14.2,16.1,17.17】	2019年 75.8 %	2020年 78.4 %	2025年 85 %	28%
7	外国人人口【10.2】	2019年 4,447 人	2020年 4,641 人	2025年 6,500 人	9%
8	温室効果ガス量の排出量 【7.2,12.5,12.8,15.1,17.17】	2014年 1,481 千t	2017年 1,311 千t	2025年 1,350 千t	130%
9	再生可能エネルギー（電力）普及率【7.2,17.17】	2019年 9.19 %	2020年 17.2 %	2025年 14.2 %	160%

## 1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

## （5）「2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

環境分野については、産業部門の二酸化炭素排出量が減少したことによる温室効果ガス量の削減や、民間の太陽光導入実績を正確に積み重ねたことによる再生可能エネルギーの普及率向上が達成できたことなど、すでに目標値を達成しており、今後も更なる推進が見込める。その他の分野については、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、進捗状況は芳しくない。今後、コロナ対策を踏まえた事業展開や、アフターコロナを見据えた戦略を打ち出していく必要がある。特に、No.4「子供が健全に成長していると思う市民の割合」については、長期休業による学力低下の心配や、人との交流が減ったことによる心の負担が増加したことが影響していると考えられ、今後、感染症対策の徹底やオンライン授業の活用などにより、通常の学校運営へ回復させ、子供の健全育成を図る。また、No.5「65歳以上で要介護1以下のお達者市民の割合」の低下については、コロナ禍により高齢者が気軽にかかりつけ医に通えなくなったことなどが原因で、病気・怪我などが重症化してしまう方が増加していると考えられる。後は、2021年3月に策定した「掛川市介護保険事業計画・掛川市高齢者福祉計画」の推進や、「生涯お達者市民が大勢いるまち」を目指す「かけがわ生涯お達者市民推進プロジェクト」により、市民総ぐるみでの健康づくりに取り組む。

## 1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2020年～2022年

## (1) 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

No	取組名	指標名	当初値	2018年実績	2019年実績	2020年実績	2022年目標値	達成度(%)
1	心豊かな人づくり	子どもが健全に成長していると思う市民の割合	2019年 69.4 %			2020年 67.1 %	2025年 80 %	-22%
2	かけがわ地域循環共生圏の実現	再生可能エネルギー（電力）普及状況	2018年 9.19 %			2020年 17.2 %	2022年 14.2 %	160%
3	しごとを生み出すイノベーション支援	創業支援事業計画支援実績	2019年 延べ 56 件			2020年 延べ 64 件	2022年 延べ 200 件	6%
4	持続可能な移動支援	通勤・通学・通院・買い物等に出かけるときに公共交通に不便を感じない市民の割合	2019年 31.5 %			2020年 31.3 %	2022年 38.3 %	-3%
5	協働によるまちづくりのステップアップ	人と人が信頼し助け合っていると思う市民の割合	2019年 57.9 %			2020年 59.9 %	2022年 66.5 %	23%

## (2) 自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等

## 【掛川SDGsプラットフォームの創設について】

当市のSDGs推進に賛同する民間団体がパートナーとして登録し、SDGs達成に向けた取組を積極的に行っている企業・団体を「見える化」することで、パートナー同士のつながる場を創出し、地域経済の活性化を図る。また、市が抱える地域課題を共有し、パートナーの強みを活かした事業提案により、官民連携で地域課題解決に取り組むことで、市内のSDGs達成に向けた取組の更なる向上を図る。

## (3) 「自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

環境分野（再生可能エネルギー普及率）については、すでに目標値を達成しており、今後も更なる推進が見込める。その他の分野については、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、進捗状況は芳しくない。今後、コロナ対策を踏まえた事業展開や、アフターコロナを見据えた戦略を打ち出していく必要がある。

特に、No.1「子供が健全に成長していると思う市民の割合」については、長期休業による学力低下の心配や、人との交流が減ったことによる心の負担が増加したことが影響していると考えられ、今後、感染症対策の徹底やオンライン授業の活用などにより、通常の学校運営へ回復させ、子供の健全育成を図る。

また、No.4「通勤・通学・通院・買い物等に出かけるときに公共交通に不便を感じない市民の割合」の低下については、密回避の意識が強くなったことによる路線バスの利用を避ける市民が増加したことが一つの要因であると考えられ、来年度、新たな交通施策の導入を検討し、多様な交通手段の連携により、市民が不便に感じない移動手段の確保を図る。

## (4) 有識者からの取組に対する評価

・「本年9月に始動する」と書かれたプラットフォームにおける官民連携が課題解決に向けて実質的にワークするか否かは初年度時の対応が重要であり、現在の取組に期待する。

・初年度でSDGs認知度向上とステークホルダーを繋ぐ「掛川SDGsプラットフォーム」の創設準備が主たる進展であり、提案書に記載されていた、地域経済循環の要となる産官学民連携による地域新電力事業に関しては報告がないが、進展しているのか、説明が望まれる。